

『悪霊3』主要登場人物



ステバン・トロフィー・モヴィチ・ウエルホヴェンスキー……ワルワラ夫人の「親友」。  
ビョートル（IIベトル・シヤ・ビエル）・ウエルホヴェンスキー……ステバンの息子。  
ワルワラ・ペトロ・ウナスタウロギナ……スタウオレーシキ村の大地主。未亡人。町の有力者。  
ニコライ（IIニコラ）・ウセオドロヴィチ・スタウロギン……ワルワラの一人息子。  
リザウエータ（IIエリザウエータ・リーザ・リース）・ニコラエーウナ・トウシナ……ステバン・ウエルホヴェンスキーのかつての教え子。莫大な財産の相続権を持つ。  
マウリーキー・ニコラエーウイチ・ドロズドフ……謹厳実直な大尉。リーザのいとこで婚約者。  
アンドレイ・アントーノヴィチ・フォン・レンプケ……町に赴任した新しい県知事。  
ユーリヤ・フォン・レンプケ……フォン・レンプケの妻。リーザの遠縁にあたる。  
キリーロフ……建築技師。独特の「人神論」を唱える。ウエルホヴェンスキー氏のサークルのメンバー。  
リプーチン……サークルのメンバー。県庁役人。吝嗇でゴシップ屋のフリーエ主義者。

DIC  
107p

DIC  
579p

シャートフ……ワルワラの農奴の息子。大学除籍後はヨーロッパなどを放浪し、帰郷。  
マリヤ（IIマリ）・シャートフ……シャートフの妻。三年の別離後、シャートフのもとへ身を寄せる。  
ダーリヤ（IIダーシヤ）……シャートフの妹。ワルワラの養女で同家に暮らす。  
ヴィルギンスキー……町の役人。サークルのメンバー。妻は助産婦のアリーナ。  
イグナート・レビヤトキン……自称「退役二等大尉」。大酒飲み。ペテルブルグでニコライと会う。  
マリヤ・レビヤトキナ……イグナートの妹。足の悪い「神がかり」。  
カルマジーノフ……かつて世を風靡したロシアの大作家。県知事夫人ユーリヤの遠縁にあたる。  
ソフィヤ・マトヴェエーウナ・ウリーチナ……福音書売り。  
エルケリー……ビョートルに心酔している若い少尉補。  
フェージカ……流刑囚。元ウエルホヴェンスキー家の農奴。  
（アントン・ラヴレンチェウイチ・G……この小説の語り手。ウエルホヴェンスキー氏の友人。

DIC  
107p

DIC  
579p